

発表

01 10:05~10:35

北欧諸国の福祉・教育施策について —高齢者福祉と教育のあり方を中心に—

酒井 久美子 SAKAI, Kumiko
現代人間学部 生活環境学科 教授

京都ノートルダム女子大学 研究プロジェクト 発表会2026

司会：吉田 智子 YOSHIDA, Tomoko
図書館情報センター委員

発表

02 10:35~11:05

小学校における コレクション構築の現状と課題 ～事例の考察を中心に～

岩崎 れい IWASAKI, Rei
女性キャリアデザイン学環 教授

発表

03 11:05~11:35

授業実践から考える防災教育 —科学的リテラシーを育て、自然災害に備える

佐藤 真太郎 SATO, Shintaro
現代人間学部 こども教育学科 講師

日時：2026年2月24日(火)
10:00~11:35 (開場 9:45)

場所：京都ノートルダム女子大学
ユージニア館3階大講義室

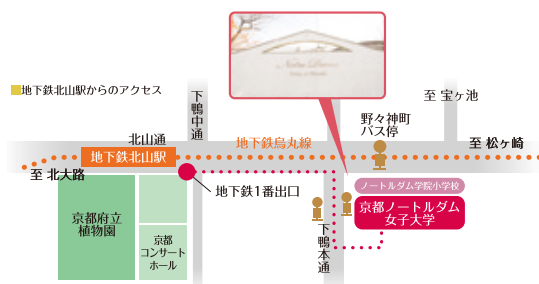
問合せ 京都ノートルダム女子大学 研究推進課

〒606-0847 京都市左京区下鴨南野々神町1

TEL.075-706-3789 FAX.075-706-3793 E-mail: kenkyu@notredame.ac.jp

参加無料

事前申し込みは不要です。
どなたでも参加できます。
(途中退室可能)



交通 ACCESS

地下鉄丸線「北山駅」①番出口より 東へ徒歩7分

市バス4号系統「野々神町」下車すぐ。もしくは、「北園町」下車 北へ徒歩5分

Schedule

開会あいさつ 10:00~10:05

図書館情報センター長
加藤 佐千子 KATO, Sachiko図書館情報センター委員
司会: 吉田 智子 YOSHIDA, Tomoko発表 01 北欧諸国の福祉・教育施策について
10:05~10:35 —高齢者福祉と教育のあり方を中心に—

概要

▶ 2025年度国外研修助成金(短期)採択研究

デンマークやフィンランドは、なぜ世界で一番幸せな国の常上位国に位置するのか。またなぜ福祉先進国、生活大国として発展してきたのか。本研究でおこなった現地視察をもとに、その根底にある国民の考え方や施策について、特に今回は、高齢者福祉と教育のあり方を中心に発表する。高齢になっても自分の生活、人生を自分たちで考えるために、両国ともに高齢者自身の組織が形成されている。そのなかで、高齢者のより良い生活について検討されている。またこどもは国の宝と考え、人格形成を重視した教育がおこなわれている。そのための教育制度や考え方が国や国民意識の基盤を形成していると考えられ、遊びや体験からの学びなど、幼少期に人生に必要な土台づくりのための教育が実施されている。

酒井 久美子

SAKAI, Kumiko

現代人間学部 生活環境学科
教授

Profile

同志社大学大学院文学研究科社会福祉学専攻博士前期課程修了、同後期課程単位取得後退学。2005年より京都ノートルダム女子大学講師、准教授を経て、2021年より現職。専門分野: 社会福祉、地域福祉。「ソーシャルワークの援助関係における相互作用・傾聴と対話の大切さ」(2018)『京都ノートルダム女子大学研究紀要 第48号』、「グレンツヴィの教育思想と福祉教育実践」(2019)『福祉生活デザイン研究 第2号』など。

発表 02 小学校におけるコレクション構築の現状と課題
10:35~11:05 —事例の考察を中心に—

概要

▶ 2025年度研究一般助成・個人研究助成金採択研究

学校図書館が読書習慣の形成や探究学習の支援に有効であると言われながらも、実際にはあまり活用されていない現状がある。その要因には、学校内の教職員の意識や専門職の不在などさまざまな原因が考えられる。その一つとして学校図書館内における図書館資料の貧弱さに着目した。図書館利用にあたっては資料の充実がその土台となるにもかかわらず、学校図書館では資料選択やコレクション構築が体系的に行われてこなかった背景があるからである。実際に探究学習のために児童が資料探索をするにあたり、京都市内の1小学校の実例をもとに、どのような現状であるかを分析する。今回は1校のみを対象としており、予備調査としての位置づけとする。

岩崎 れい

IWASAKI, Rei

女性キャリアデザイン学環
教授

Profile

東京大学大学院教育研究科博士課程満期退学(教育学修士)。専門は図書館情報学、研究テーマは学校図書館における読書・学習支援。主な論文:「探究学習における学校図書館の役割」(『レファレンスサービスの射程と展開』所収。日本図書館協会。2020)、『Public School Libraries in Inquiry-Based Learning in Japan(大平睦美との共著。Global Action for School Libraries: Models of Inquiry 所収。De Gruyter SAUR。2022)』、『学ぶ権利を支えるブックスタート』(かものが出版。2023)

発表 03 授業実践から考える防災教育
11:05~11:35 —科学的リテラシーを育て、自然災害に備える

概要

▶ 2025年度学術出版助成金採択研究

日本列島では、毎年のように風水害や地震などによる災害が発生している。そのため、災害からの被害を減らす防災・減災教育は重要である。しかしながら、それら災害からの被害を減らす防災教育には課題がある。例えば、小学校における地震を想定した避難訓練で、多くの児童が最短時間の避難よりも自分の机の下への避難を優先することなどが報告されている。このような状況の中、本研究では、国内における防災・減災教育の現状と課題を整理し、その上で、科学的リテラシー育成を基盤とした、これからの時代に求められる人材育成の具体的な内容・方法として、理科教育を軸とした防災・減災教育の在り方を検討した。

佐藤 真太郎

SATO, Shintaro

現代人間学部 こども教育学科
講師

Profile

兵庫教育大学大学院連合学校教育研究科修了(博士(学校教育))。埼玉県公立小学校教諭を経て、京都ノートルダム女子大学現代人間学部こども教育学科兼女性キャリアデザイン学環講師。専門分野: 理科教育学・防災教育。研究テーマ: 理科で自然災害をどのように取扱うのか。近著:『授業実践から考える防災教育——科学的リテラシーを育て、自然災害に備える』ミネルヴァ書房。